

11. 意見交流

参加者の意見交流をはかるため、グループディスカッションを行った。現在の所属・役職から参加者を、小学校グループ（2班）、中学校グループ（2班）、管理職グループ、教育委員会グループの6グループに分け、立場が同じ者同士で意見交流してもらった。各グループには、1) これまでの防災教育の実施効果、2) 効果的な防災教育に求められること、3) 防災教育を継続的に実施していくための仕組みづくりに求められること、4) 本協議会で今後議論したいことの4点について議論していただき、最後に各グループから発表してもらった。その内容は以下の通りである。

(1)小学校グループA

発表者 夕部 由美（黒潮町立佐賀小学校 教諭）

2) 効果的な防災教育に求められること

子どもたちが、自分の命は自分で守れるということ、主体的に行動できるということでは、「人・地域・歴史と関わる」ということが出てきました。地域に住まうお作法だとか、地域のことを知っておくこと（歴史・良さ・特性）、地域を愛する子どもになるということは本当に大事なことなので、自分の住んでいるところを好きでいられるように、いいところを見つけること。地域に関わるボランティア活動や清掃活動に関わって地域のことをよく知って、歴史（津波の歴史等）やいろんなことを知り、人と関わって挨拶をするなど、「地域の人と関わり、歴史を知る子どもを育てる」ことが大事だということが挙げられました。

それに基づいて学習では、「学びの大切さ」ということです。「聞く力」も大事です。見通しを話さないと子どもたちは今、何をしているのかということがわかりませんので、オリエンテーションを行い、活動内容の計画をしっかりとらせて授業を行っていきます。「子どもの気づき、子どもの様子を把握する」ことも大事です。実践的な避難訓練や学び、いざというときに生かせる体験、色んな場面を想定しての体験をさせることも大事です。

以上のことに基づいて、子どものやる気につながるような、子どものやる気を継続していく刺激や発表会・賞・マスコミなどを使います。子どもの力を前向き思考にするようなものを用いてやっていくことが、やる気アップにつながって効果的な防災教育につながっていくと思います。

